

植盛幹太

破壊王・デストロイヤーを主軸に、
バーサタイル性を求めたセッティング

「飛燕ベイトフィネス」で
クリーク攻略の策もあった

メインタックルはルアー名として知られる『ダークスリーパー』のサブネームをもつバーサタイルスピンドル『ウィベットのデストロイヤー2セット。今戦では出番こそなかったものの、『飛燕ベイトフィネス』も控えていた。「クリークとかで足下の釣りがメインになったら欠かせないかと。ベイトフィネスロッドの中では6フィート10インチという長めながらも軽量で、ヘビダナやスマラブ、小型ハードベイトなどが軽快に操作できます」。

は増水日で、共に魚が岸に寄らず控えに徹した。「初日は強風だったので、ライトリグを扱うならスピニングでより繊細に精度を上げたほうがいいかなと。壁沿いをX80やXナナハンのジャークで飛ばしてみるのも面白いと思ったんですが、残念ながらそんな状況ではなく」。使用可能な5セット中、2本は止むを得ず他社製を使用。「自分がまだデストロイヤー全てを使いこなせていないという理由もありです。5本限定で、オカッパリで汎用性を求めるとなると選択が難しい。今後は開発を進めて理想のモデルを作っていきたいなという思いはあります」。

上から
(スピナーベイト・ビッグ2WAY・ダークスリーパー用)メインタックル1参照。
(ベイトフィネス用) ●ロッド: デストロイヤー F3-610X飛燕ベイトフィネス(メガバス) ●リール: アルファスBF TW8.5L(DAIWA) ●ライン: シーガー R18フロロリミテッドハードBASS 10ポンド(クレハ)
(スナックジグ用) ●ロッド: グラディエーターマキシムGX-72MH+CV(リットロビート2(レイドジャパン)) ●リール: メタニウム100HG LEFT (シマノ) ●ライン: シーガー R18フロロリミテッドハードBASS 16ポンド(クレハ)
(ライトリグ各種用)メインタックル2参照。
(MMZデカ・サカマタシャドウ) ●ロッド: グラディエーターアンチGA-65MSスピナーボーダー (レイドジャパン) ●リール: ステラC2500SHG (シマノ) ●ライン: シーガー PEX8 0.8号+シーガーグランドマックスFX 2号(共にクレハ)



メインタックル②

ROD

デストロイヤー
F2-66XS ウィベット
(メガバス)

「ロッドが軽いので、小さいワームのみならず5インチクラスでも対応できるオカッパリバーサタイルスピンドル。長さも絶妙で1本だけ持って行けばコレです」。

REEL

イグジスト LT2500S-XH
(DAIWA)

「ロッドが軽いので、リールも軽量のイグジストをマッチング。巻き物などパワー系の釣りはステラを使っています。こちらもプロテクションフィルムが保護」。

LINE

シーガー PEX8 0.6号
+シーガーグランド
マックス
FX
1.5号
(共に
クレハ)

「流れの釣りでラインが流されてボトムを取りにくいときでも、色の変化でボトムを判断できるから好きなPEです。リーダーは絶対にFX。シーガーだけの糸より強い製法が採用されていて、何よりメチャ強い」。

メインタックル①

ROD

デストロイヤー
F4.1/2-71X
ダークスリーパー
(メガバス)

「高感度でシャキッとしていて軽く、元々は橋脚でのフリーリグをメインにしようと思っていた1本。今戦では橋脚は不発も、護岸沿いでビッグ2WAYのモリケンリグに使用。シェイクで誘いやすく、カーブフォールではその優れた感覚が威力を発揮」。

REEL

メタニウム
101HG LEFT (シマノ)

ハンドル&ノブはアンタレスMD標準を換装済み。「力を込めて巻きやすい。伊藤巧さんのセッティングを見習いました」。ボディはプロテクションフィルム(トレジャーガード)でラッピングして傷から保護」。

LINE

シーガー R18
フロロリミテッド
ハードBASS 14ポンド

「旧吉野川はハードボトムが多いので、よりしなやかな追求したフロロリミテッドではなく、ハードBASSで根ズレ対策」。



佐々木勝也

大注目!はササカツ監修
プロトスピニング

苦手な旧吉野川で
全力で戦った5本

「プロトスピニングは、僕

佐々木さんプロデュースのスピニングロッドのプロトも用意。このプロトのスピニングは、僕のフィネスの釣りのメインロッドとしてテスト中です。これは、ライトリグからライトブラグ、ちよつと大きめのワームのジグヘッドまでいろいろできる、超万能ロッドですよ。やはりこういった戦いの場でテストしないと意味がないので。リベリオン681LFSはホバスト用。プロトスピニングこれ1本でパワーフィネス以外なら今回の釣りは全部できちゃうんですが、勝負のときはリグごとに別々の竿を用意して運用したほうがなにかと便利ですね」。

佐々木さんプロデュースのスピニングロッドのプロトも用意。このプロトのスピニングは、僕のフィネスの釣りのメインロッドとしてテスト中です。これは、ライトリグからライトブラグ、ちよつと大きめのワームのジグヘッドまでいろいろできる、超万能ロッドですよ。やはりこういった戦いの場でテストしないと意味がないので。リベリオン681LFSはホバスト用。プロトスピニングこれ1本でパワーフィネス以外なら今回の釣りは全部できちゃうんですが、勝負のときはリグごとに別々の竿を用意して運用したほうがなにかと便利ですね」。

メインタックル②

ROD

プロトロッド
(DAIWA)

「僕がスピニングでやる、パワーフィネス以外の釣りが全部この1本でできます。アンダー1グラムのめっちゃ軽いものから7グラムクラスのものまで使えます。キャスト性能が高く、良く飛ばし、僕がこれまで使ってきた中でも最高のスピニングロッドです」。

REEL

エアリティ
LT2500S-XH
(DAIWA)

「スピニングリールはエアリティが一番気に入っていて、軽いし使いやすい。同じ番手で統一したほうがいいので、今は全部エアリティに統一しています。軽量なのでロッドをシャープに扱える(バランスの良さがあります)」。

LINE

PE
デュラセンサー
×12EX+ Si3
0.6号
(DAIWA)
+フロロ1.5号

「僕は昔からスピニングはPEしか巻きません。このプロトロッドはPEと組み合わせることで、使えるルアーの範囲が極限まで広がります」。



メインタックル①

ROD

ブラックレーベル
SC C69M+ -ST
(DAIWA)

ブラックレーベル版のファイヤーワームで、シリーズの中でも汎用性が高いロッド。12ポンドラインを巻いて中量級ルアーをすべてまかなえる。超バーサタイルロッド。カスミでもどくでも出番が多く、バトルのときも欠かさない1本です」。

REEL

スティーズSV TW
100HL
(DAIWA)

「スプール径32ミリが近年のバーサタイルなスプールで、スティーズSV TWはバーサタイルロッドに組み合わせてなんでも使えるようにしたいという思いで選んでいます」。

LINE

スティーズ
フロロクロスリンク
12ポンド(DAIWA)

DAIWAの最高峰フロロ。「バーサタイルロッドに合わせるラインの太さでちょうど良いのが12ポンド。場合によっては13ポンドを使うときもあります」。

上から
(デッカブメスJr.等) ●ロッド: スティーズSC C68H-ST+SB ストラフトートレス88 ●リール: シリオンTW HD 1000HL ●ライン: モンスタープレイズ 20ポンド<ハイパークランク、ジグ&ボーク等> ●ロッド: ブラックレーベル C69M+ST ●リール: スティーズSV TW 100HL ●ライン: スティーズフロロクロスリンク12ポンド<パワーフィネス用> ●ロッド: リベリオン671ML/MHFS ●リール: エアリティ LT2500S-XH ●ライン: PE デュラセンサー×12EX+Si3 1.5号 ●リーダー: スティーズフロロクロスリンク 14ポンド<ダウンショットリグ用> ●ロッド: スティーズSCプロトロッド ●リール: エアリティ LT2500S-XH ●ライン: PE デュラセンサー×12EX+Si3 0.6号 ●リーダー: フロロ1.5号<ホバスト用> ●ロッド: リベリオン681LFS ●リール: エアリティ LT2500S-XH ●ライン: PE デュラセンサー×12EX+Si3 0.6号 ●リーダー: フロロ1.5号
※すべてDAIWA



ヒットルアー

植盛幹太

ビッグ2WAY
エラストマー
(レイドジャパン)

「水中を舞うハネモノ」
流れに負けない
高アピール力

ワーム中央にフックを刺したワッキーセッティングのモリケンリグで使。流れの中では、流れの中の水の中ハネモノです。流れのある河川でも流しながらワゴンボウと存分にアピールできます。元々はオリジナルの2WAYで活用してきた釣り方だが、今戦で初投入。「最近発売されたばかりで使い込んでいませんが、今回でお気に入りになりました」。

陸王 2025

©ルアーマガジン

使用ルアー

植盛幹太

ダークスリーパー
(メガバス)

ぶっ飛びのボトム専用スイムベイト
ボディが倒れず根がかり皆無!

「流れの中やリップラップなど複雑なボトムでも、根がかりにキッチリ引けるのが最大の特徴。ボディにジグヘッド状のフックが内蔵されていて、なおかつボトムで倒れないバランス設計。「ワーム素材で包まれていることもあって、ボトムでは抜けるようなタッチ感。さらにはメチャ飛ぶ。今年は遠賀川の犬鳴堰ですごく活躍してくれました」。

陸王 2025

©ルアーマガジン

ヒットルアー

植盛幹太

スナックジグ5〜7グラム
+スコーパー
フログダディ
(共にボトムアップ)

「オカッパリでは1つあれば
様々な状況に対応できるジグ」

「好きなフックが使えるので、いろんなワームと組み合わせやすい。オカッパリなら1つである程度の場所を網羅できますね。オープンにもなるカバリーでのすり抜け性能にも優れるスナックジグ。では、ダディを選んだ理由とは、「増水してカバリーもあるスピニングでは心もとないなと思って、水面直下でワフワフ感させてベイトで代用できるジグはないかな。最後はギミー 4.5インチでも釣りました」。

陸王 2025

©ルアーマガジン

ヒットルアー

植盛幹太

MMZデカ高浮力
(O.S.P)

動きの支点となるテールにも
フックを配置してミスバイト激減

カラー名「まんまみず (高浮力)」を使用。「自作でオフセットのゲイプからPE3号を繋げて、マズ(リ)をテール側まで縫い刺し。動きの支点がテール側にあるのでミスバイトを防げます。僕の中では早いフィネス。水面直下をバインバインと泳がせてサーチベイトにもなるし、サイトでも食わせられる。ただし、セッティングは根気が要る作業…簡単にセットできる方法があったら誰か教えて下さい(笑)。画像は「ラインむき出し、マズ(リ)2回通し」した現場での簡易セッティングだ」。

陸王 2025

©ルアーマガジン

ヒットルアー

佐々木勝也

ギャップジグ3.5グラム
+ギミー3.5インチ
(共にボトムアップ)

コンパクト&スローを
キーワードにこのコンビをチョイス

今回の最大魚である1660グラムをキャッチしたのがこのルアー。「コンバクトだけど水押しが強く、スローに攻めたいので軽め&小さなこの組み合わせに。トローラーにはリューキのインセットキーパーをセット。これを使うことでトローラーがすれず快適に扱えます。ジグ&ボークはもっとスピードを出したいときにセレクト。ルアー自体も大きいので魚をもっと引っ張りたいたいに使います」。

陸王 2025

©ルアーマガジン

ヒットルアー

佐々木勝也

T.D.ハイパー
クランク
1066Ti
(DAIWA)

風が吹いたら
ハイパークランクの出番

初日に1280グラムを含む3本をキャッチ。「ゆっくり巻くか、もしくはデジ巻き。今回はハードボトムのエッジを中層ト口巻く、ボトムにはギリギリ当てるか当てないかのゾーンを引いてきます。マラバーを巻いた自作フックチェーンも使用。これは視覚的に動きの滑らかさがプラスされて、よりナチュラルに見せたいときに投じた」。

陸王 2025

©ルアーマガジン

ヒットルアー

佐々木勝也

コイケ (ハイドアップ)
※初期モデル

スコーパー
フログダディ
(ボトムアップ)
ラバースカートチューン

クアッドフォーゼ
(DAIWA) ※シュリンモード等で使用

見えバスのクセに応じて
ダウンショットの具を使い分け

「コイケはファーストインバクトが強烈な一方、見切られると2回には食わないことが多いです。これはコイケの最初期のモデルで、マテリアルがやハード。いわゆる旧コイケはもっと柔らかいですね。スコーパーフログダディはカエルっぽく見えるというよりも、エラストマー&ラバーという独特の存在感で見せたいとき。クアッドフォーゼのシュリンモードはスコーパーと使い方は同じで、より水押しを強くしたい場合はこれ」。

陸王 2025

©ルアーマガジン

ヒットルアー

佐々木勝也

フィッシュローラー
4インチ
(レイドジャパン)
0.6〜0.7グラムホバスト

スーパー
フィッシュローラー
4.2インチ (レイドジャパン)

ホバストはロール具合を見てワームを吟味していく

旧吉野川水系の鍋川で多用し、ファーストフィッシュをキャッチ。「どのレンジにいるかよく分からない魚を引っ張り上げるイメージで、しっかりロールさせてアピールしたかったのでフィッシュローラーを使いました。バチバチにロールするのがフィッシュローラー。ロールさせるもせせないも両方できて、よりナチュラルに誘えるのがスーパーフィッシュローラーというイメージです」。

●フック: ホバースト #2(リューキ)

陸王 2025

©ルアーマガジン